

見知らぬ乗客 (Strangers on a Train)

観賞日 2024年6月24日 上映時間 101分

【概要】

制作 1951年 アメリカ

監督 アルフレッド・ヒッチコック

脚本 レイモンド・チャンドラー、チェンツイ・オルモンド

原作 パトリシア・ハイスミス『見知らぬ乗客』

音楽 ディミトリ・ティオムキン

撮影 ロバート・バークス

出演 ファーリー・グレンジャー (ガイ・ヘインズ)

ロバート・ウォーカー (ブルーノ・アンソニー)、ルース・ローマン (アン・モートン)

レオ・G・キャロル (モートン上院議員)、ケイシー・ロジャース (ミリアム)



【あらすじ】

ニューヨーク行の特急列車。テニスプレイヤーのガイ・ヘインズは故郷のメトカーフに向かう。すると見知らぬ乗客ブルーノ・アンソニーから話しかけられる。奇妙なことに、ブルーノはガイが秘かに考えていたことを知っていた。妻のミリアムが浮気をしていて離婚話が持ち上がっていること、そしてその後、ガイ自身は上院議員の娘アンとの結婚が予定されていることなど。そこで、ブルーノは突然ある提案をしてきた。ガイにとって邪魔なミリアムとブルーノにとって目障りなブルーノの父親の交換殺人である。ガイはその提案を一笑に付した。ところが、ブルーノは提案通り勝手に遊園地でミリアムを殺害し、ガイに約束の交換殺人を執拗に迫ってきた。ガイは仕方なくアンにブルーノとのいきさつを話す。ブルーノはガイを脅迫、なおも殺人の履行を迫る。追い詰められたガイはあの遊園地でブルーノと対決することに・・・。

ある日、突然事件に巻き込まれる恐怖。パトリシア・ハイスミスのデビュー小説の映画化。

【解説】

■ポイント

●巻き込まれ型サスペンス

ヒッチコックが得意とするもので、善良でごく普通の主人公がふとしたことから事件に巻き込まれ、追い詰められていく恐怖を描いたもの。

代表作：「北北西に進路を取れ」「知りすぎた男」など

●受賞 (1952年第24回アカデミー賞)

撮影賞 (白黒部門) ノミネート

■見どころ

●恐怖感を増幅するモノクロフィルムの演出

●うまい小道具の使い方

ライター、眼鏡、ネクタイ・・・

●ヒッチコックお決まりのカメオ出演シーン

映面前半、駅から楽器を抱えて列車に乗りこむ太った男